

識別番号 P 1 5

研究課題 東日本大震災とヨーロッパ社会・生活・政治・法律の視点から

研究代表者 村田真一（ヨーロッパ研究所所長）

共同研究者 ヨーロッパ研究所所員

Summary The study of “The Great Eastern Japan Earthquakes and Europe” focused on the comparative survey of the perception and attitude toward the catastrophe between European and Japanese people, the influences on European people after the catastrophe and their understandings of great risks such as earthquakes. It looks to find the possibilities and ideal conditions for mankind to coexist when put it in front of worldwide crisis.

1. 本研究の目的及び背景

2011年3月11日に起きた東日本大震災とそれに伴う福島原子力発電所の大事故は、ヨーロッパのメディアでも連日大きく取り上げられ、ヨーロッパ各国は、強い衝撃と将来への不安をもってこの事実を受けとめた。また、この震災をきっかけに、ヨーロッパの人びとがもつ日本と日本人に対するイメージも変化しつつある。

本学のヨーロッパ研究所は、共通性と独自性が複雑に交錯するヨーロッパをさまざまな視角から研究している。現代史が物語るように、ヨーロッパで生じる問題はそのまま世界の問題と重なっていたが、今や、日本で起きる問題もヨーロッパや世界の抱える焦眉の問題とオーバーラップしている。そこで、研究所は、ヨーロッパ研究を今後より発展・深化させていくため、ヨーロッパ諸国における東日本大震災と震災後の日本の状況に対する受け止め方に見られる差異と共通点を分析し、この災厄が日本とヨーロッパの関係に与えたインパクトを多面的に捉えることには少なからぬ意義があると考え、本研究に着手するに至った。

2. 問題設定および研究の内容

東日本大震災が、とくに日本とヨーロッパの関係に与えた直接・間接的影響を、おもに社会・生活・政治・法律の側面から考察し、地球規模のリスクを前にした人類が共生できるために不可欠な条件を模索する試みを行なった。

その際、研究の柱に据えたのは、東日本大震災に対するヨーロッパの国々や国民の反応と、リスクや共生に対するヨーロッパ人の認識の変化に対する考察である。この中心課題に基づき、共同研究者は、スペイン・ロシア・ドイツ・ポルトガル・フランス・ルクセンブルク・EUにおける歴史や社会構造を踏まえたうえで、国民性や現実認識をパラメータに、ヨーロッパの国どうしのみならず、ヨーロッパと日本の比較検討にも取り組んだ。そして、研究成果をシンポジウムで刷り合わせ、討論を重ねることにより、新たな問題の所在を確認し、今後の課題を設定した。

3. 研究の成果

共同研究の成果は、2011年6月18日（土）に研究機構による東日本大震災緊急企画の一環として開催されたシンポジウム「東日本大震災とヨーロッパ社会・生活・

政治・法律の視点から」において、共同研究者と学外の識者が報告し合う形でまとめられた。なお、このシンポジウムは日・EU フレンドシップウィークの企画行事を兼ね、約 50 人の参加者があった。

シンポジウムでは、それぞれの講演に続き、質疑応答が行なわれ、全体討論では、日本人とヨーロッパの人びとの国民性の違いから環境問題や教育問題に至るまで、長時間にわたり、活発な議論が展開された。そして、すべての参加者が、今回の大震災のような大きなリスクを克服するにあたり、各国・各地域の考え方における本質的な差異に対する理解を深め、世界と議論できる現実認識の方法を探り、言語力を高める必要があることを再認識した点がとくに重要である。そして、大学の教育課程においていかにしてこのような能力を養っていくかが、今後の重点課題のひとつとなった。

また、院生や学部生もやりとりに積極的に参加し、研究の深化のみならず、一定の教育的効果も得られたシンポジウムだったこともつけ加えておきたい。

シンポジウムの論題及び講演者のデータを以下に示す。

司会：ライノルト・オブヒュルスー鹿島(Reinold Ophüls-Kashima) (外国語学部教授)

開会挨拶：滝澤正 (学長)、村田真一 (ヨーロッパ研究所所長)

午前の部 (11:00-12:35)

エデルミラ・アマート(Edelmira Amat) (所員・外国語学部教授)「日本人はアジアのスペイン人だろうか？」

梅林テチャナ (元キエフ教育大学講師)「ウクライナと日本に暮らして」

ユルゲン・ウィッツシュトク (Juergen Wittstock) (慶應義塾大学講師)

「国民の生の声を…」

午後の部 (14:00-16:40)

市之瀬敦 (所員・外国語学部教授)「1755年リスボン大地震から見えること」

中村雅治 (所員・外国語学部教授)「フランスの対応」

ジャンークロード・オロリッシュ (Jean-Claude Hollerich) (所員・外国語学部教授)

「ルクセンブルク・EU の場合」

全体討論 (17:00-18:30)